



学校だより

令和5年度 第11号

令和6年2月29日

「先生、わたしこの5年生に送ってもらえてよかった…」

タイトルの言葉は、その日行われた「6年生ありがとうの会」の休憩時間に、6年生への感謝の言葉が映し出されたスクリーンを見つめながら、ある6年生がつぶやいた言葉です。また、別の6年生は、その日の感想に「体育館に入った時から、花びらを散らして電気を入れていて、この瞬間から6年生ありがとうの会が成功するとわかっていました」と記していました。

開会前、1年から5年までの児童が集まった会場内には、温かな雰囲気満ちており、6年生が入場すると一気にそれは高まりました。大好きな6年生に感謝の気持ちを伝えようと、歌やダンス、演奏に寸劇と、工夫を凝らした子どもたちの発表が、5年生の心のこもった演出のもとに繰り広げられました。

その時、6年生たちは大いに笑い、そして少しはにかんで、眼には光るものが浮かんでいました。下級生の「ありがとう」の気持ちは確かに6年生に届いていました。それも、たくさん、強く、優しく、楽しく。その場にいた大人も子どももそれを感じ取っていました。

心を尽くして感謝を伝え合った「6年生ありがとうの会」は、またひとつ三小の子どもたちを成長させてくれたことを確信しています。



贈られた手作りのメダルを胸に、圧巻のパフォーマンスを見せてくれた6年生

校長 山越正人